

2012 年度第 5 回執行理事会議事録

期 日：2012年11月10日（土）13:00～16:50

場 所：地質学会事務局

出席者：石渡会長 渡部副会長 齋藤常務理事
井龍 高木 中澤 松田 山口 山本
（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：ウォリス副会長 伊藤 坂口 内藤 西 平田 保柳 星 山路

* 定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 9 名，委任状 9 名，合計18名の出席。

* 前回議事録を承認した。

I 審議事項

1. 論文賞の対象論文の範囲についての検討

今年の選考については，これまで通りの選考方法で実施する。

今後については，理事会において山路理事の提案を審議する。

2. 名誉会員推薦委員会委員選出

来年度の候補者選出については，例年通りの手順で行うこととする。階層別委員候補者は，それぞれ担当を決めて人選にあたり，理事会に間に合わせることとした。

階層別委員4名 大学、官公庁、小中高教員、会社（執行理事会で検討）

理事会推薦委員1名 理事会で選出

職責委員（各支部長）7名

竹下 徹，川辺孝幸，伊藤谷生，原山 智，宮田隆夫，石田啓祐，小林哲夫

3. 日本学術会議より出された報告書「高レベル放射性廃棄物の処分について」に対する

コメント（地質環境長期安定性研究委員会の吉田委員長ほかによる）

大阪大会におけるトピックセッションでの議論を受けて、学術会議の報告書に対するコメ

ントを会員に向けて発表する意向が、コメントの文案をもって示された。

文案は執行理事会から理事会MLに流し，期限を設けて意見を受け付ける．プレス発表用に，概略版も作成する．

4. 学術の大型研究計画に関する予備調査開始について【締切11/15】

大型研究計画マスタープランの改訂（2014年4月策定）について、10/23および11/6の geo-flashで会員に広報した。

- ・地質学会の会員からも何らかの参加提案することが大事であるとの判断で、井龍理事・西理事の発案による「掘削科学を用いた地球環境史の解明と資源科学への応用」を提案することとした旨、井龍理事から説明があった。

5. その他

1) イタリア，L' Aquilaの被害地震についての裁判に関連して、確認事項

理事会の承認を受け、11月2日付で“声明”を発表。プレスリリースを行った。

また、地震学会会長経由で、イタリアの被告となっている研究者らから、サポートレターの要望があり、地質学会も英文の声明文を送った。また、ホームページにも掲載し、英語版のホームページには、英語の文章を貼付けた。

2) IUGSと共催の津波関係の国際シンポジウム（地質学会年会）とG-EVER（災害科学とリスクマネジメントの国際組織、産総研の佃理事ほか）の来年の10月開催予定のシンポジウムについて

仙台で同種の催しが月をまたぎ開催となるので、できれば一緒にしてはどうかとの話が挙がっている。IUGSに対してはこのことを打診中である。G-EVERからは地質学会ほか4学会に対し参加要請があるとのことなので、その時には地質学会として、同時開催への協力を求めたい。

3) ICDPワークショップの開催

“ Japan Beyond-Brittle Project (JBBP)
-Scientific drilling to demonstrate a
feasibility of the engineered geothermal
system in ductile zones- “

日時：2013年3月12日（火）～16日（土）

会場：東北大学工学部（仙台市青葉区）

4) 地質学会125周年記念事業について

斎藤常務は、表記の事業について矢島理事
（地学史懇話会）に意見を聞いた。

矢島理事からは、「歴史編纂ができるような
会員がいなくなっているので、100周年の時の
ような出版物を作るのは難しい、100周年以降
の年表程度なら作成できるのではないか」との
ことであった。それについて、100周年以降25
年間の各分野のレビューを雑誌の特集号など
にできるのではないか、との石渡会長の提案が
あった。

6. 12月の理事会議案の確認（執行理事会のMLに 流し、詳細を詰める）

1) 2013年度事業計画基本方針

2) 名誉会員のあり方の検討

3) 地方支部区理事の選出方法の検討に伴う、選 挙規則・細則の改正案の審議.

4) 論文賞の対象論文の範囲についての検討.

5) 総会開催日程について

概ね以下の日程で行うことを理事会に提案
する。

開催予定日 5月18日（土）北とびあ（会場
確保）

・第1回執行理事会10時～11時半

・総会12時30分～14時

・フォトコン表彰式 14時15～15時15分

・2013年度第1回理事会 15時30分～17時

*フォトコンの表彰式にギャラリーを集める
ため

6) その他

II 報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会（西・山本）

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

1. アイソトープ協会より「第50回アイソトープ 研究発表会」の共催依頼（2013/7開催予定）

例年通り共催を承諾し、運営委員として今年度に
続き山口耕生理事を推薦した。

2. 日本堆積学会と台湾地質学会の主催による Western Pacific Sedimentology Meeting（2013 年西太平洋堆積学会議（2013WPSM）の共催依 頼があり承諾した。

会期：2013/5/13-14、会場：Longtan Aspire
Resort, Taoyuan, northern Taiwan

3. 第54回藤原賞（藤原科学財団）の推薦依頼 （1/31ㄨ切、学会ㄨ切1/10）←HP, geo-flash Newsに掲載

<その他>

1. 原子力規制委員会より、大飯原発敷地内の破 砕帯調査の調査団員として本会からの推薦者 も含め下記の4名を選出したことが報告され た。

岡田篤正（立命館大）、重松紀生（産総研）、
廣内大助（信州大）、渡辺満久（東洋大）

2. 大学評価学位授与機構に対し25年度、26年度 実施分機関別認証評価委員会専門委員候補者 として下記の5名を推薦した。

石渡 明・ウォリス サイモン・木村 学・宮
下純夫・渡部芳夫

3. 学術会議よりの、新公益法人制度への移行状 況等に関するアンケートに回答した。

4. 学術会議より「東日本大震災にかかわる協力 学術研究団体の活動の調査（第2回）」があり、 執行理事会で回答内容確認し、送付する。

5. 平成24年度自然史学会連合講演会「自然災害 とナチュラルヒストリー」加盟学協会の推薦講 演者による講演が行われる（12/1、栃木県立博 物館）← HP, geo-flashに掲載

6. 海洋調査技術学会第24回研究成果発表会

- (11/8) の案内 ← HP, geo-flashに掲載
7. 国土総合技術政策総合研究所講演会 (12/4) の案内← HP, geo-flashに掲載
 8. 産業技術連携推進会議地質関係合同研究会 (12/6) の案内← HP, geo-flashに掲載
 9. 日本水環境学会セミナー「東日本大震災後における放射性物質の挙動」 (1/24) ← HP, geo-flashに掲載
 10. 京都大学第14回情報学シンポジウム「数値シミュレーションと情報学」 (2013/2/19) の案内 ← HP, geo-flash Newsに掲載
 11. ICDP ワークショップの開催案内← HP, geo-flashに掲載

“Japan Beyond-Brittle Project (JBBP) -Scientific drilling to demonstrate a feasibility of the engineered geothermal system in ductile zones-“ (2013/3/12 (火) ~16 (土)、会場：東北大学工学部)

<会員>

1. 今月の入会者 (3名)
正会員 (2名) 西川 正, 河野啓幸 (学生割)
谷口知寛
2. 今月の退会者 (1名)
正会員 (1名) : 池原義明
3. 9月末日会員数
賛助 : 27 名誉 : 71 正会員 : 3985 (正会員 : 3790, 正 (院割) 会員 : 185, 正 (学部割) 会員 : 10) 合計4083 (昨年比 -61)

<会計>

- ・地質研修事業の収支は黒字となったが、今後のため備品購入の予定あり。

クリノメーター、つるはし等が古くなっているので交換の必要が生じている。

(2) 広報部会：広報委員会 (内藤・松田)

- ・ジオルジュ後期号の発行：創刊号とセットでプレスリリースを行うこととした。

できるだけ広く知って貰うために、広報については今後、色々な方法を検討する。

- ・第4回フォトコンテスト：11月号に募集記事を掲載。ポスターができ次第各方面に配布予定。展示会場に関しては、早急に検討する必要がある。平田理事と要相談。

(3) 学術研究部会：行事委員会 (星)

- ・連合のトピックセッションとして、渡部真人会員より提案の、ジオパーク関連の二つのセッションの学会提案を了承。

- 1) ジオパークにおける科学的な活動を深化させるため、基礎となる地球惑星科学的遺産の評価や、その保全方策の検討、また地域活性化の方策、あるいは行政や教育との連携、情報の発信方法など、ジオパークに関わる諸分野について議論するため、五学会共同提案のセッションとしたい。

コンビーナ：目代邦康 (代表、財団法人自然保護助成基金第四紀学会)、有馬貴之 (首都大学東京、日本地理学会)、渡辺真人 (産総研、日本地質学会)、林信太郎 (秋田大学、日本火山学会)、コンビーナ選定中 (日本地震学会)

- 2) ジオパーク公開審査と日本のジオパーク活動 (タイトル検討中)

日本ジオパーク委員会の審査の一部、新規申請地域のプレゼンテーションと質疑応答を公開で行う。ポスターセッションとして日本各地のジオパークの活動紹介を行う。

コンビーナ：渡辺真人・住田達哉 (産総研地質標本館)

- 3) 「人間環境と災害リスク」のセッションに共催学会 (他に地理学会、GIS学会、第四紀学会、地図学会、火山学会) として参加する。地質学会からのコンビーナ (継続) : 小荒井会員 (連合環境災害対応委員会委員)

(4) 学術研究部会：国際交流委員会 (井龍)

- ・タイ地質学会との学術交流協定については、既に契約期限が過ぎていることから、改めて交流協定の締結を行うことで確認準備を早急に行う。また、ベトナム地質学会との交流協定につ

いても、重要なこととして検討することとした。

(5) 学術研究部会：その他（井龍）

- ・三菱マテリアルテクノ（株）より、水の酸素および水素安定同位体分析結果の誤りについて、同社のHPに情報の開示が行われた。それを受けて地質学会では、geo-flash（10/26臨時号）に掲載し、会員に周知・注意を促した。学会として、これ以上のアクションはしない。

(6) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（山路）

1) 編集状況報告（11月8日現在）。

2012年度投稿論文 総数92編 [総説5（和文5）、論説56（和文52・英文4）、報告7（和文7）、ノート6（和文6）] 口絵8（和文5 英文3）・巡検案内書10

査読中32編 受理済み31編（うち通常号14 特集号17）

- ・118巻11月号：通常号（論説5・ノート1・口絵1：計73頁・校正中）
- ・未公開分「口絵」のJ-STAGE公開について：委託業者に公開作業を依頼した。年度内を目処に順次公開の予定。

(7) 編集出版部会：Island Arc編集委員会（伊藤）

伊藤理事に代わり、井龍理事から以下の3点について報告された。

- ・編集状況報告
アイランドアークの新名称公募については、News誌11月号等で広報する。
- ・Island Arc 賞選考委員会：選考委員長 井龍 康文

(8) 企画出版委員会（山口）

1. 地球史年表（超歴史特表な清川ほか）についてのこれまでの経過説明があり、年表については2枚組のポスターとして出版し、説明文は電子書籍での出版を考えている。内容については、今後もさらに詳細な査読が必要と考えている。
2. ジオツアー・ジオパーク（吉田・天野・中井

編）も提案は、電子出版する方向で決定。ただし、文献引用、写真等の著作権などの不備、内容、体裁に不統一がある。また、大部なので、テーマ別に分割出版でもよいかなど、検討が必要なこともある。

3. 白滝ジオパークの地質案内（岡 孝雄ほか）についても電子出版する方向で決定。
4. その他 三浦半島、長瀬のリーフレットは特に進展なし。

(9) 社会貢献部会（高木・平田・中澤・保柳）

1) 「地質調査の研修会」実施報告（中澤）

- ・10月29日～11月2日の4泊5日、講師徳橋秀一 会員、講師補佐中島 礼 会員で実施され、6名の参加があり、事故なく終了。

(10) ジオパーク支援委員会（高木）

- ・第3回日本ジオパーク全国大会が11月2-5日に室戸ジオパークで開催された。来年は隠岐ジオパークで開催。
- ・今年で認定4年目になる日本ジオパーク5地域（世界3地域を含む）の再認定審査が、JGCによりこの秋から冬にかけて実施される。

(11) 地学オリンピック支援委員会（平田）

- ・アルゼンチン大会での成績を称え、地学オリンピック日本委員会に会長名で祝辞を送付

2012年12月1日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会 長（代表理事） 石渡 明

署名人 執行理事 斎藤 眞